

思春期にある子どもへの包括的セクシュアリティ教育実践者の育成

古山美穂・渡邊香織・清水彩・高知恵・戸田まどか・林里沙子
実践看護科学領域 家族支援看護科学分野 母性看護・助産学

I. 活動目的

昨今の不登校児の増加や自殺、被虐待児の存在など思春期にある子どもの状況から、大阪府下の教育機関・福祉施設のニーズに合わせた包括的セクシュアリティ教育の持続的な提供が求められている。本活動の目的は、包括的セクシュアリティ教育の実践者を育成・増やすことと、実践者間、実践者と教育機関・福祉施設とのネットワークを強化することである。今年度は講演会を通して、包括的セクシュアリティ教育の実践に必要な知識の獲得を目指した。

II. 活動内容

1. 対象 包括的セクシュアリティ教育の実践に関心のある保健医療福祉の専門家。特に本学学部生・大学院生、卒業生・修了生に推奨する。
2. 募集方法 実践者候補となる看護職の参加を多く募るため、大阪府看護協会、大阪府助産師会所属の施設を中心に「病院・助産所」512か所、保健センターなど「地域施設」48か所、「通所療養施設」7か所、「教育機関」14か所、計581か所にちらしを送付した。大阪府立大学セクシュアリティ教育プロジェクトで構築した「思春期の子どもを支える会」のWebサイトにもちらしを載せた。ちらしに記載した看護実践研究センターの募集フォームで、事前申し込みを行った。
3. 講演会

日時：2025年10月18日（土）13:00～15:20

場所：大阪公立大学阿倍野キャンパス 看護学部学舎C棟8階 C801 講義室

講演会の内容は、教師や福祉施設のスタッフが実践者と共有しておきたい事柄と教育支援の具体的な流れが理解できるように講師とともに検討を重ね、企画した。

12:30～ 受付開始 事前アンケートの協力依頼・回答

【第1部 子どもたちの現状と課題・学校で行われている教育支援の実際】

13:05～13:08 包括的セクシュアリティ教育とは 古山美穂

13:10～13:40 高等学校 三浦仁美さん（大阪府立緑風冠高等学校 養護教諭）

下村奈々子さん（大阪府立門真西高等学校 養護教諭）

13:40～14:10 中学校 吉田博子さん（河内長野市立加賀田中学校 養護教諭）

14:10～14:30 教師と協働する包括的セクシュアリティ教育の企画から運営までの実際 古山

14:40～15:10 シンポジウム

【第2部 包括的セクシュアリティ教育として実践者に求めること】

15:10～15:15 事後アンケートの協力依頼・回答

講演会は録画し、思春期の子どもを支える会 (<https://www.omu.ac.jp/nurs/adssupport/>) の登録者以外も自由に閲覧できるようホームページ「活動紹介」にアップした。

III. 活動結果

36名の申し込みがあり29名の参加があった。そのうち本学学部生が2名、大学院修了生が4名いた。写真は講演会の様子。



IV. 活動の評価

事前事後にアンケート調査を行った。

1. 事前アンケート結果

事前アンケートの調査項目は、専門分野、包括的セクシュアリティ教育の経験の有無、知識の理解度（包括的セクシュアリティ教育が必要な子どもの現状と課題、学校のカリキュラムや年間スケジュール、教員（学校）組織、学校で行われている教育支援の実際、包括的セクシュアリティ教育の企画から運営までの実際、実践者に学校や福祉施設が求めていること）であった。20名から回答を得た（回収率69.0%）。

1) 専門分野 カッコ内は%（以下、同様）

教員・教育関係者（のみ回答）は6名（30.0）、教員・教育関係者（助産師）1名（5.0）、教員・教育関係者（保健師）1名（5.0）、看護師2名（10.0）、助産師4名（20.0）、心理士1名（5.0）、相談支援専門員1名（5.0）、保健師（スクールカウンセラー;以下SC）1名（5.0）、ソーシャルワーカー（以下SW）2名（10.0）、学生1名（5.0）であった。

2) 学校や福祉施設での包括的セクシュアリティ教育の経験の有無

経験がある6名（30.0）、経験はない14名（70.0）であった。専門分野と経験の有無について表1に示す。経験がない看護師、心理士、相談支援専門員、保健師（SC）、SW、学生の参加を得た。

| 職種 | 経験がある（N=6） | | 経験はない（N=14） | |
|----------------|------------|-------|-------------|-------|
| 教員・教育関係者（のみ回答） | 3 | 15.0% | 3 | 15.0% |
| 教員・教育関係者（助産師） | 1 | 5.0% | 0 | 0.0% |
| 教員・教育関係者（保健師） | 0 | 0.0% | 1 | 5.0% |
| 看護師 | 0 | 0.0% | 2 | 10.0% |
| 助産師 | 2 | 10.0% | 2 | 10.0% |
| 心理士 | 0 | 0.0% | 1 | 5.0% |
| 相談支援専門員 | 0 | 0.0% | 1 | 5.0% |
| 保健師:SC | 0 | 0.0% | 1 | 5.0% |
| ソーシャルワーカー | 0 | 0.0% | 2 | 10.0% |
| 学生 | 0 | 0.0% | 1 | 5.0% |

3) 知識の理解度 (表 2)

どの項目も「ほとんど理解できていない」「あまり理解できていない」を合わせると 60%以上 (60 - 85%) が理解できていないと回答していた。知識の理解度と経験の有無について表 2 に示す。包括的セクシュアリティ教育が必要な子どもの現状と課題については、実践の経験がある人の中にも「理解できていない」、また経験はない人の中にも「ある程度理解している」という人もおり、現状と課題を専門家間で共有できる本講演の意義が見出せると考えられた。

| 内容 | | 経験がある (N=6) | | 経験はない (N=14) | | 合計 | |
|---|--------------|-------------|-------|--------------|-------|----|-------|
| 1) 包括的セクシュアリティ教育が必要な子どもの現状と課題 | ほとんど理解できていない | 1 | 5.0% | 3 | 15.0% | 4 | 20.0% |
| | あまり理解できていない | 1 | 5.0% | 8 | 40.0% | 9 | 45.0% |
| | ある程度理解している | 3 | 15.0% | 3 | 15.0% | 6 | 30.0% |
| | 非常に理解している | 1 | 5.0% | 0 | 0.0% | 1 | 5.0% |
| 2) 学校のカリキュラムや年間スケジュール (包括的セクシュアリティ教育を行う時間や機会の制限) | ほとんど理解できていない | 1 | 5.0% | 5 | 25.0% | 6 | 30.0% |
| | あまり理解できていない | 1 | 5.0% | 7 | 35.0% | 8 | 40.0% |
| | ある程度理解している | 2 | 10.0% | 2 | 10.0% | 4 | 20.0% |
| | 非常に理解している | 2 | 10.0% | 0 | 0.0% | 2 | 10.0% |
| 3) 教員 (学校) 組織 (年度によって包括的セクシュアリティ教育の担当者が異なること) | ほとんど理解できていない | 0 | 0.0% | 6 | 30.0% | 6 | 30.0% |
| | あまり理解できていない | 3 | 15.0% | 3 | 15.0% | 6 | 30.0% |
| | ある程度理解している | 1 | 5.0% | 5 | 25.0% | 6 | 30.0% |
| | 非常に理解している | 2 | 10.0% | 0 | 0.0% | 2 | 10.0% |
| 4) 学校で行われている教育支援の実際 | ほとんど理解できていない | 0 | 0.0% | 5 | 25.0% | 5 | 25.0% |
| | あまり理解できていない | 3 | 15.0% | 5 | 25.0% | 8 | 40.0% |
| | ある程度理解している | 1 | 5.0% | 4 | 20.0% | 5 | 25.0% |
| | 非常に理解している | 2 | 10.0% | 0 | 0.0% | 2 | 10.0% |
| 5) 教師と (福祉施設のスタッフ) と協働する包括的セクシュアリティ教育の企画から運営までの実際 | ほとんど理解できていない | 1 | 5.0% | 5 | 25.0% | 6 | 30.0% |
| | あまり理解できていない | 3 | 15.0% | 8 | 40.0% | 11 | 55.0% |
| | ある程度理解している | 0 | 0.0% | 1 | 5.0% | 1 | 5.0% |
| | 非常に理解している | 2 | 10.0% | 0 | 0.0% | 2 | 10.0% |
| 6) 包括的セクシュアリティ教育の実践者に学校や福祉施設が求めていること | ほとんど理解できていない | 0 | 0.0% | 5 | 25.0% | 5 | 25.0% |
| | あまり理解できていない | 3 | 15.0% | 8 | 40.0% | 11 | 55.0% |
| | ある程度理解している | 2 | 10.0% | 1 | 5.0% | 3 | 15.0% |
| | 非常に理解している | 1 | 5.0% | 0 | 0.0% | 1 | 5.0% |

2. 事後アンケート結果

事後アンケートの調査項目は、事前アンケートの項目に加え、講演会の内容が期待に沿っていたか (「非常に満足」から「非常に不満」の 5 件法)、実施者となる場合に必要なもの (複数回答) 「思春期の子どもの発達段階とニーズ」、「多様な性 (性的指向、性自認など) に関する知識」、「性暴力や人権に関する教育方法」、「相談対応の具体的なスキル」、「学校や福祉施設との連携方法」について、一連の運営の見学や参加の希望の有無であった。28 名から回答を得た (回収率 96.6%)。

1) 専門分野

教員・教育関係者 (のみ回答) は 12 名 (42.9)、教員・教育関係者 (助産師) 1 名 (3.6)、教員・教育関係者 (保健師) 2 名 (7.1)、看護師 2 名 (7.1)、助産師 6 名 (21.4)、心理士 1 名 (3.6)、相談支援専門員 1 名 (3.6)、SW2 名 (7.1)、学生 1 名 (3.6) であった。

2) 学校や福祉施設での包括的セクシュアリティ教育の経験の有無

この項目について回答を得た 27 名中、経験がある 13 名 (48.1)、経験はない 14 名 (51.9) であった。専門分野と経験の有無について表 3 に示す。

表3 専門分野と経験の有無（事後）

N = 27

| 職種 | 経験がある (N=13) | | 経験はない (N=14) | |
|----------------|--------------|-------|--------------|-------|
| 教員・教育関係者（のみ回答） | 7 | 25.0% | 4 | 14.3% |
| 教員・教育関係者(助産師) | 1 | 3.6% | 0 | 0.0% |
| 教員・教育関係者(看護師) | 1 | 3.6% | 1 | 3.6% |
| 看護師 | 2 | 7.1% | 0 | 0.0% |
| 助産師 | 2 | 7.1% | 4 | 14.3% |
| 心理士 | 0 | 0.0% | 1 | 3.6% |
| 相談支援専門員 | 0 | 0.0% | 1 | 3.6% |
| ソーシャルワーカー | 0 | 0.0% | 2 | 7.1% |
| 学生 | 0 | 0.0% | 1 | 3.6% |

3) 知識の理解度（表4）

講演会后、経験の有無に関わらず、すべての項目で「ある程度理解した」、「非常に理解した」であった。学校のカリキュラムや年間スケジュール、教員（学校）組織について理解され、包括的セクシュアリティ教育を行う時間や機会に制限がある中、行っている現状や、年度によって包括的セクシュアリティ教育を企画する担当者が異なる現状について周知された。その上で、教育機関・福祉施設にいる思春期の子どもにどのような届け方が可能か、今後協働して検討する共通理解が整った。

表4 知識の理解度と経験の有無（事後）

N = 28

| 内容 | 経験がある (N=13) | | 経験はない (N=14) | | 回答なし (N=1) | | 合計 | | |
|---|--------------|----|--------------|----|------------|---|------|----|-------|
| 1) 包括的セクシュアリティ教育が必要な子どもの現状と課題 | ほとんど理解できなかった | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| | あまり理解できなかった | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| | ある程度理解した | 5 | 17.9% | 9 | 32.1% | 1 | 5.0% | 15 | 53.6% |
| | 非常に理解した | 8 | 28.6% | 5 | 17.9% | 0 | 0.0% | 13 | 46.4% |
| 2) 学校のカリキュラムや年間スケジュール（包括的セクシュアリティ教育を行う時間や機会の制限） | ほとんど理解できなかった | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| | あまり理解できなかった | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| | ある程度理解した | 3 | 10.7% | 6 | 21.4% | 0 | 0.0% | 9 | 32.1% |
| | 非常に理解した | 10 | 35.7% | 8 | 28.6% | 1 | 5.0% | 19 | 67.9% |
| 3) 教員（学校）組織（年度によって包括的セクシュアリティ教育の担当者が異なること） | ほとんど理解できなかった | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| | あまり理解できなかった | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| | ある程度理解した | 2 | 7.1% | 4 | 14.3% | 0 | 0.0% | 6 | 21.4% |
| | 非常に理解した | 11 | 39.3% | 10 | 35.7% | 1 | 5.0% | 22 | 78.6% |
| 4) 学校で行われている教育支援の実際 | ほとんど理解できなかった | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| | あまり理解できなかった | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| | ある程度理解した | 5 | 17.9% | 8 | 28.6% | 1 | 5.0% | 14 | 50.0% |
| | 非常に理解した | 8 | 28.6% | 6 | 21.4% | 0 | 0.0% | 14 | 50.0% |
| 5) 教師と（福祉施設のスタッフ）と協働する包括的セクシュアリティ教育の企画から運営までの実際 | ほとんど理解できなかった | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| | あまり理解できなかった | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| | ある程度理解した | 3 | 10.7% | 5 | 17.9% | 0 | 0.0% | 8 | 28.6% |
| | 非常に理解した | 10 | 35.7% | 9 | 32.1% | 1 | 5.0% | 20 | 71.4% |
| 6) 包括的セクシュアリティ教育の実践者に学校や福祉施設が求めていること | ほとんど理解できなかった | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| | あまり理解できなかった | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| | ある程度理解した | 4 | 14.3% | 6 | 21.4% | 0 | 0.0% | 10 | 35.7% |
| | 非常に理解した | 9 | 32.1% | 8 | 28.6% | 1 | 5.0% | 18 | 64.3% |

4) 講演会が期待に沿っていたか

「非常に満足」が9名（32.1）、「満足」が19名（67.9）であった。実践の経験がある参加者にとっても「非常に満足」、「満足」という回答を得た。

5) 今後、包括的セクシュアリティ教育を提供する実施者となる場合に必要なもの（複数回答）

回答が多い順に示した。「性暴力や人権に関する教育方法」22名（78.6）、「相談対応の具体的なスキル」22名（78.6）、「思春期の子どもの発達段階とニーズ」19名（67.9）、「多様な性（性的指向、性自認など）に関する知識」18名（64.3）、「学校や福祉施設との連携方法」13名（46.4）であった。実践の経験がある人も経験がない人と同様のニーズがあることが示された（表5）。また経験がある人がその他として記載した項目に、バウンダリー、限られた時間の中で8つのキーコンセプトをどのように組み込むか、またその実際、生徒の意思決定支援という回答があった。実際に教育を実践する中で見えてきた、具体的な項目もあることがわかった。教育経験を重ねながら、実践者間でアイデアを共有する機会の必要性が示唆された。

表5 今後、あなたが包括的セクシュアリティ教育を提供するとしたら、どのような内容が必要かと経験の有無（事後） N=28

| 必要な内容 | 経験がある (N=13) | | 経験はない (N=14) | | 回答なし (N=1) | | 合計 | |
|--|--------------|-------|--------------|-------|------------|------|----|-------|
| 性暴力や人権に関する教育方法 | 11 | 39.3% | 10 | 35.7% | 1 | 3.6% | 22 | 78.6% |
| 相談対応の具体的なスキル | 10 | 35.7% | 11 | 39.3% | 1 | 3.6% | 22 | 78.6% |
| 思春期の子どもの発達段階とニーズ | 10 | 35.7% | 9 | 32.1% | 0 | 0.0% | 19 | 67.9% |
| 多様な性（性的指向、性自認など）に関する知識 | 9 | 32.1% | 8 | 28.6% | 1 | 3.6% | 18 | 64.3% |
| 学校や福祉施設との連携方法 | 6 | 21.4% | 6 | 21.4% | 1 | 3.6% | 13 | 46.4% |
| その他（具体的にご記入ください） | | | | | | | | |
| バウンダリー | 1 | 3.6% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 1 | 3.6% |
| 限られた時間の中で、8つのキーコンセプトをどのように組み込むか、またその実際 | 1 | 3.6% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 1 | 3.6% |
| 生徒の意思決定支援 | 1 | 3.6% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 1 | 3.6% |
| 保護者たちへの対応 | 0 | 0.0% | 1 | 3.6% | 0 | 0.0% | 1 | 3.6% |

6) 一連の運営の見学や参加の希望の有無

希望ありは20名（71.4）であった。教員・教育関係者（のみ回答）8名、助産師5名、教員・教育関係者（看護師）2名、教員・教育関係者（助産師）・看護師・心理士・学生・SW各1名であった。実践の経験がある人からも10名の希望があった。今後、教員・教育関係者や実践経験がある人と協働で運営を行うことができれば、これまで本プロジェクトが行ってきた教育の課題を発見する可能性もあり、PDCAサイクルを回しながらよりよい教育を模索していけると考える。

7) 自由記載

| 職種 | 自由記載 |
|----------|--|
| 教員・教育関係者 | いい時間になりましたね！SOSの出し方教育の話はぜひ前向きに進めましょう |
| 教員・教育関係者 | 助産師さんによる性の相談会、その手があったか！と目からウロコ。次年度校長マネジメント予算で導入します。後、吉田先生の教材を共有してほしいです。 |
| 教員・教育関係者 | 本校でも1年生向けに性教育の講演会を実施していますが学校から依頼する際の予算も限られている中、来ていただける団体やどこにアプローチをすればいいのか情報を得ることができました。ありがとうございました。 |
| 教員・教育関係者 | いろいろな講演会や研修に行っています。そこで、出会う学校外の方々为学校年代の子どもたちを大切に思う人がこんなにいるんだということをたくさんの人に知ってもらいたいという思いがあります。そのことを改めて学校で伝えたいと思いました。あなたたちが出ていく社会には、あなたたちを思ってくれている人がたくさんいることが何よりも尊いと思っております。またこのような機会を作ってくださいと嬉しいです。ありがとうございました。 |
| 教員・教育関係者 | 私は養護教諭です。高校1年生には私が、高校3年生には外部の方という実施の仕方をしてます。外部の方に期待することですが、生徒のニーズが学校によって全く違うので、そこはしっかりと打ち合わせをお願いしたいということと、いろんな境遇の子どもたちがいて、みんな親に望まれきたのよというようなキレイごとで傷ついてしまう生徒がいるという学校側の考えも受けて内容や言葉を考えていただけるとありがたいと思います。 |
| SW | 本日はありがとうございました。本日登壇していただいた先生方の熱意が伝わってきました。 |
| 助産師 | 学校の先生方が外部との連携を望んでおられるということを知ることが出来ました。学校側との共同、相談が非常に重要であるかを知ることが出来ました。 |

| | |
|----------|---|
| 助産師 | 知らなかったことを勉強させていただきました。実践者育成の講義も受けたいです。 |
| 助産師 | 来年度からも引き続き包括的性教育を頑張りしたいと思います |
| 心理士 | 思っていたよりもセクシャリティとは幅広いことなのだなと思いました。専門家や機関が連携して教育していく大切さを学びました。ありがとうございました。 |
| 教員・教育関係者 | 部活終わりで慌てて出てきて名刺を忘れるという失態を犯してしまいましたが、とても勉強になりました。三年前に自分が学年団で人権推進委員になり、本校で古山先生に講演していただいた際に、事前打ち合わせに如何に一人で空回っていたかがよくわかりました。あれから生徒の実態をよく観察してその時々に応じた人権ホームルームを企画し、協働の大切さを実感しながらこの春卒業させました。このような機会をいただき本当にありがとうございました。 |
| 助産師 | 病院勤務の合間に学校に出張講座をしていた経験がありますが、助産師の側にも時間の制約があること、助産師教育の中で包括的セクシュアリティ教育について十分学べていない現状やかなり高いスキルが求められており、その習得は個人に委ねられていること、助産師の熱意で半ばボランティアという形でしか継続していかない現状があると感じています。そこは大きな課題であり、今日の先生方が求められていることに応えたいと思う一方、すぐには解決されない問題だろうと思います。 |
| 相談支援専門員 | 自分が実践する側のものではないですが、実際の現場での様子参考になりました。 |

V. 今後の課題と展望

講演会を通して、参加者が包括的セクシュアリティ教育の実践に必要な知識の獲得を目指す今年度の目的は達成できた。一方、これまでの包括的セクシュアリティ教育の経験の有無に関わらず、さらに必要な知識や仕組みなど実践（候補）者のニーズが明らかになった。次年度以降は、包括的セクシュアリティ教育の実施を望む教育機関・福祉施設を募り、今回アンケートで見学・参加を希望した人とともに教育の企画、運営、実施、評価を行う。また「性暴力や人権に関する教育方法」、「相談対応の具体的なスキル」などニーズのある知識について発信・共有する機会も検討したい。2月に講師の三浦仁美さん、下村奈々子さん、北河内地区の養護教諭、本学卒業生で大阪公立大学工業高等専門学校養護教諭、講演会参加者の開業助産師2名（うち1名は本学修了生）とともに、北河内地区での包括的セクシュアリティ教育の協働について実践可能なところはどこからか、顔が見える話し合いをした。助産師は教育の経験がすでにあるため、各高等学校の養護教諭との協働が開始されると期待できる。

